

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	スーパー（店長）	・台風の影響で青果物の価格が高くなっており、売上高には貢献している。今後は、品不足によるマイナス影響が出なければ順調に回復する。
		乗用車販売店（従業員）	・モデルチェンジが予定されており、販売増につながる。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型車発売の効果が2、3か月続くと期待している。
		旅行代理店（従業員）	・秋から年末にかけての旅行シーズンを迎えるが、ハネムーン、海外旅行の相談も多いことから、順調に推移する。
		通信会社（営業担当）	・大規模店舗の出店で周辺の店舗にも相乗効果がみられ、販売台数は順調に推移している。今後も新サービスの提供が予定されており、販売台数はやや増加傾向で推移する。
		通信会社（営業担当）	・新商品の発売が予定されているため。
		ゴルフ場（従業員）	・2、3か月先の予約は例年より多く、回復に向かっている。
		設計事務所（所長）	・土地利用の相談が増えてきている。
	変わらない	商店街（代表者）	・売上低迷により空き店舗がますます増える傾向にある。また、年末、冬物商戦も盛り上がる雰囲気がかえり、まだまだ底をはって行く。
		一般小売店〔菓子〕（販売担当）	・上得意客をポイントカードの売上金額で管理しているが、その客数が減少し客離れが進行している。こうした状況から判断すると良くなるとは考えにくい。
		百貨店（営業担当）	・客の購入単価は上がっているが、必要な商品以外は買わず、必要な商品も長く使える物を買う傾向が今後も続く。
		スーパー（企画担当）	・客数、客単価ともほぼ前年並みで上向く気配が感じられない。
		スーパー（財務担当）	・売上高、来客数は毎月、前年割れが続いているが、9月実績を消費税総額表示が施行された4月と比べると、客単価は3ポイント改善され、徐々に上向いてきている。
		コンビニ（店長）	・特に天候に恵まれた7月を除いて、ここ半年間の販売額は前年比4%ダウンしている。酒類販売の不振もあり、今後も上昇要因が見当たらない。
衣料品専門店（経営者）		・ダイレクトメールや電話により来店を促進しても、客の反応は鈍く、来客数の増大につながらない。来客数の減少は当面続く。	
衣料品専門店（経営者）		・9月の客の動きがまずまずであったことから、これからの秋、冬物シーズンに期待感はあるが、新しい流行商品はなく、不安な面も残っている。	
家電量販店（店長）		・各メーカーの新商品の発売により選択肢が広がっているのに、客の動向はまだまだ鈍感である。	
家電量販店（店長）		・デジタル映像機器を主軸とした販売を強化しないと、売上確保は難しい。	
乗用車販売店（従業員）		・小型車の販売が順調で8、9月は少し上向き基調にあったが、年末にかけては新型車投入もなく、今後は頭打ち状態になり、販売量の増加は見込めない。	
都市型ホテル（経営者）		・予約状況があまり芳しくなく、大阪に比べ地方は景気回復が遅れている。	
観光名所（経営者）		・相次ぐ台風の影響により、秋の紅葉シーズンの打撃を危惧している。	
美容室（経営者）	・ガソリン代もだいぶ値上がりしており、今後のマイナス要因となる。		
その他〔不動産〕（経営者）	・土地の値下がりはまだ続いており、しばらくは景気が良くなるとは考えられない。		
やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・2、3か月先は冬物商品の需要が最大のピークにさしかかるが、固定客以外への拡大は到底期待できない。	
	コンビニ（エリア担当）	・台風の影響が小売業にとって痛手となっており、地域経済全体に占める構成比は小さいが、何らかの悪影響が出てくる。	
	乗用車販売店（管理担当）	・新型車投入も単発的な需要に終わり、元の状態に戻る。	
	設計事務所（職員）	・下半期に向け、今後ますます同業他社との競争が激しくなり、単価、受注額とも減少してくる。	

		住宅販売会社（従業員）	・秋口は受注量が例年減少することに加え、今年は原材料費の上昇により単価を抑えることが難しく、今後の販売は厳しくなる。
	悪くなる		
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・今後、新商品のOEM生産が立ち上がり、少し良くなる方向に向かっていく。
	変わらない	電気機械器具製造業（経営者）	・電子機器、LED関連企業の受注は見込めるが、それ以外に大量受注案件はなく、また、補修が中心となる見込みである。
		建設業（総務担当）	・不動産投資意欲を持った客はいるが、地価の下落が続いていることから決断しかねている。
		輸送業（支店長）	・ビニールハウスの倒壊など台風被害が深刻で、復旧に相当時間がかかり、青果物の出荷が大幅に落ち込む。
		金融業（融資担当）	・公共工事が削減され、建設土木は引き続き厳しい状況が予想される。また、材木、製材関係も末端価格が回復しておらず、その他の業種においても回復の兆しが無い。
		広告代理店（経営者）	・得意先の売上に底打ち感はあるが、下期の広告予算は依然厳しく、増加は見込めない。
やや悪くなる	化学工業（営業所長）	・原油価格の高騰により石油化学製品の価格が異常に上昇している。しかし、販売先にはなかなか価格転嫁できない状況であり、自社でコスト上昇を吸収していることから、経営が非常に苦しくなっている。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	・原油価格、部材価格の高騰など、経済環境の変化が少しずつ悪影響を及ぼしている。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・原油高による原材料コストの上昇が経営を大きく圧迫している。特に樹脂関係、プラスチック製品、家電製品の価格転嫁ができない状況が続くと、景気は悪くなっていく。	
	輸送業（役員）	・石油価格が高騰したままでコスト上昇の大きな要因となっているが、現在のような需要が伸びず、競争が激しい状態では販売価格に転嫁できず、利益が減少する。	
	悪くなる	建設業（経営者）	・公共事業そのものが少なく、民間工事を含めダンピング合戦が続く。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（従業員）	・求人数が年末に向けて増加する時期で、求人市場は活発な動きが期待できる。
		民間職業紹介機関（所長）	・地元大手企業を中心に業績が向上しており、これに伴い中小企業の経営者も気持ちの上でプラス思考が強くなってきている。
	変わらない	職業安定所（職員）	・新規求職者数は3か月連続して前年比2けた台で伸びている。大規模な雇用調整はみられないが、自己都合離職者の増加傾向がみられる。また、失業予防のため求職活動を行う定職者が増加している。
		職業安定所（職員）	・新規求人は前年同月比で2か月連続のマイナスで、特に建設業の減少が大きい。一方で、パートを除く派遣や請負求人は前年同月比で2割増が続いている。
やや悪くなる			
悪くなる	-	-	